

# ニバーレ菌対策を強化した秋まき小麦の赤かび病防除

## 概要 Abstract

- Microdochium nivale*（ニバーレ菌）による葉枯症状の発生要因を明らかにしました。
- ニバーレ菌に対する有効薬剤を明らかにしました。
- ニバーレ菌の多発に対応した赤かび病防除対策を提案します。

## 成果 Results

### 葉枯症状の発生要因

- 主な感染時期は開花期間。（穂の感染時期と同じ）
- 極端な過繁茂により助長。
- 紅色雪腐病（病原菌はニバーレ菌）発生量の影響小。
- 品種間差は判然としない。
- 早期多発により減収する。（穂の発病の方が影響大）
- 防除により、穂の発病が抑えられれば、葉枯症状も抑制される。



図. ニバーレ菌対策を強化した秋まき小麦の赤かび病防除



写真. 小麦の赤かび病（上：穂の症状、下：葉枯症状）

表. 小麦の赤かび病に対する有効薬剤

薬剤	希釈倍数	赤かび病 (DON濃度低減)	赤かび病 (ニバーレ菌)	備考
テブコナゾール水和剤F	2000	●(少量散布も●)		赤さび病も●
メトコナゾール水和剤	2000	●(少量散布も●)		赤さび病も●
チオファネートメチル水和剤	1500	●(少量散布も●)		ニバーレ菌で耐性菌
イミノクタジン酢酸塩・チオファネートメチル水和剤F	800~1000	●	●	出穂後1回以内
イミノクタジン酢酸塩液剤	1000	●	●	出穂後1回以内
ジエトフェンカルブ・ベノミル水和剤	1000	●	●	
	1500		●	
キャプタン・テブコナゾール水和剤	500	●	●	赤さび病も●
キャプタン水和剤	600~1000		●	

●十分な効果あり。

注) チオファネートメチル剤とベノミル剤は同一系統の薬剤

## 普及 Dissemination

ニバーレ菌による減収リスクの高い地域における小麦の赤かび病および葉枯症状に対する防除対策として活用してください。

## 連絡先 Contact

十勝農業試験場  
研究部 生産環境グループ  
0155-62-2431  
tokachi-agri@hro.or.jp